

ジャンボ渡辺の学 富士山の学

富士山を抱える山梨、静岡県は来年2月までに、「神聖さ」「美しさ」を後世に引き継ぐ取り組みを、ユネスコの諮問機関イコモス(国際記念物遺跡会議)に報告しなければなりません。富士山を守る人材育成やプログラムについて、昨年末、米国の国立公園で自然保護官たちと聞いてきました。彼らは日本が適切に対応できるかを心配していました。

彼らは「国や県の対応だけでなく、国民の英知と専門性を結集すること」「長期的な視野から様々な利害を調整すること」「人材育成の大切さ」などを助言してくれました。現場の声には説得力があります。

カリフォルニア州のヨセミテ国立公園で自然保護官として長く働いたマイケル・ロス氏(26)は、現在、NPO法人ヨセミテ管理委員会に所属し、同公園のビジターセンターに常駐しています。若者向けの後継者育成プ

人材育成 米の国立公園に学ぶ

実地体験の積み重ね重要



渡辺豊博さん

プログラムの講師を務めたり、公園の歴史や環境を子どもたちに紹介する絵本を作ったり、世界各国から訪れる学者を案内したりしています。

ロス氏の動きは速く、自分の庭のように公園内を歩き回り、動物や鳥をすばやく発見します。木の葉を食べるミユールジカやセコイアの大木に穴をあけるキツツキを望遠鏡で見せてく

れました。絶壁から落下するヨセミテ滝では、氷河期からの地質学的な歴史と、19世紀後半にダム建設を止めた自然保護運動家ジョン・ミュラーの役割を熱く語ってくれました。

ロス氏は「観光促進と環境保全という両立が難しい課題をかなえるためには、専門的な現場の知識の継承が必要。登山や環境に関して教育すれば、子どもたちはゴミを捨てなくなるし山は汚れない」と力説していました。

アリゾナ州のグランドキャニオン国立公園で、ボランティアで自然保護活動に取り組む男子

学生(26)に偶然出会いました。現在、カリフォルニア工科大学で地質学を専攻していて、時間がある子どもたちを相手に、地質学教室の講師を務めています。

彼の将来の夢は、同公園の自然保護官として勤務すること。そう思わせたのは、小学生の頃から参加したトレッキング、キャンプ、清掃活動、環境教育などの実地体験だったそうです。今後、富士山を守り伝えるには、現場での人材育成がポイントだと感じました。

(わたなべ・とよひろ) 都留文科大教授



ヨセミテ国立公園で、自然保護運動家のジョン・ミュラー氏について語るマイケル・ロスさん



花崗岩(かこうがん)の大渓谷が広がるヨセミテ国立公園＝いずれも渡辺豊博さん撮影